

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」東京訴訟(東京地裁)第7回期日(20210630)提出の書面です。

原告のただし こと 廣橋 正 52 歳です。16 歳年下のかつと一緒に暮らしています。

僕は、物心着いた時から男性に心惹かれることに気づいていました。両親から愛されなくなることを極度に恐れ、学校や会社でもいじめや差別を恐れ、セクシュアリティのことは決して人に知られないように息を殺しながら生きてきました。

思春期を迎える 80 年代、同性愛は「異常」「変態」「病気」などと思われていた時代でした。自分の性的指向をなんとか変えようと手を尽くしましたが、結局変えることはできませんでした。性的指向とは、自らの意志でも、他人の力によっても変えることはできないものだったのです。

その頃の僕はいつも、「自分は他の人より劣った存在なのではないか?」「この先、一生ひとりぼっちで生きていくしかないんだ」と思っていました。

大学生になり、新宿にある「タックスノット」というお店で、「同性同士であっても、長く付き合っていくうちに、関係はかけがえのない宝物のようなものになっていく」ということをマスターのタックさんが教えてくれました。

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」東京訴訟(東京地裁)第7回期日(20210630)提出の書面です。

かつとは、9年前に出会いました。当時九州に住んでいたかつと遠距離が3年ほど続いた後、かつが仕事をやめて東京に引っ越してきました。

昨年、僕の仕事がリモートになったので、東京を離れて田舎町に引っ越しました。ずっと二人で欲しかった大型犬の子犬「海」を迎え入れ、今では三人で暮らしています。

毎朝、かつが洗濯をして、僕が朝ごはんを作ります。朝ごはんは、鰯の干物、土鍋で炊くご飯、小松菜の煮浸し、冷奴、ワカメの味噌汁などです。ご飯の後はかつが車で出かけて行く姿を海と一緒に手を振りながら見送ります。

仕事を終わったら、僕が晩ごはんを作りながら、かつが帰ってくるのを海と一緒に待ちます。かつが車で帰ってくる音が聞こえると、海と一緒に窓辺に出て、帰ってくるかつに向かって手を振ります。

そして、今日もかつが無事に帰ってきたことに感謝します。広い宇宙の中でひとりのパートナーがいること。今日も一日平穏に送れたことをありがたく思うからです。

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」東京訴訟(東京地裁)第7回期日(20210630)提出の書面です。

東京にかつがやって来た冬、かつの甲状腺に病変が見つかりました。僕は夜も眠れず病院に付いて行きました。診断を聞きに行く時には半ば強引にかつと一緒に診察室に入ったのですが、それは病院に「家族でない人には病状をお話できない」と言われるのを恐れたためでした。

かつの病変は経過を診ることになりましたが、この先、16歳年上の僕が倒れた時に、お医者さんはかつに病状を説明してくれるだろうか？最後に僕が旅立つ時に、かつは僕のそばにいられるのだろうか？と思うと不安でいっぱいになります。

今年1月、原告の佐藤郁夫さんが倒れて搬送されました。パートナーのよしさんは、二人の関係性を病院側に伝えました。しかし、病院からの連絡は郁さんの妹さんに伝えられるだけで、2週間後に病状が悪化した時にも、よしさんは妹さんからの連絡によって集中治療室に入ることができたのです。

最後に郁さんは、生前に望んでいたようによしさんに見守られながら旅立っていきました。しかし、二人は家族としては扱われなかったのです。

病院は規則に従ったとはいえ、どれだけよしさんの心を傷つけ、尊厳を踏みにじったこ

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」東京訴訟(東京地裁)第7回期日(20210630)提出の書面です。

とでしょう。愛し合い、17年間も一緒に暮らしてきた二人を、どうして二級市民のよう  
に扱うのでしょうか？そして、この国には同じような思いをして来た人たちがどれだ  
けいるのでしょうか？それを思うと、悔しくて涙が出ます。

僕たちは、特別な権利のためにここにいるわけではありません。結婚で得られる権利や社  
会保障は、アメリカでは1500以上と聞きますし、日本でも同じようにあると思います。

男女のカップルであれば当たり前にあるものが、なぜ僕たちには与えられないのでしょ  
うか？平等の権利を得たからといって、他の誰かを傷つけることも、誰かの権利を奪う  
こともないのにです。

この世界に生まれてきてたった一つ僕が願うことは、誰かを心から愛し、誰かに心から  
愛されることです。かつと二人で寄り添いながらささやかな毎日を過ごし、これから先  
も二人で一緒に年を重ねていくことです。

ですが今、この国で暮らす僕たちセクシュアルマイノリティは、二級市民のように扱わ  
れ、年を重ねるにつれ不安は大きくなるばかりです。

人は、幸せになるために生まれてくるもの。人種、性別、そしてセクシュアリティに関

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」東京訴訟(東京地裁)第7回期日(20210630)提出の書面です。

わりなく、すべての人はみな平等であるべきだと僕は思います。なぜならば、性的指向

も性自認も、自ら選択できるものではないからです。

若いセクシュアルマイノリティには昔の僕のように、「自分は劣った人間なんだ」「自分

は一生一人で生きていくしかないんだ」という思いを抱いて欲しくないのです。

一人で生きるのもいい。でも、一緒に生きていきたいと思う人が見つかったら結婚でき

る選択肢があること。セクシュアリティにかかわらず、愛し合う二人が結婚して家族に

なれる。法に守られながらたくさんの幸福を分かち合っていける。そういう社会になる

ことを、心から願っています。

裁判所にはどうか、人類の叡智である司法の力を、今こそ発揮していただきたいと切に

願います。